

新センター長就任

医学部長 盛武 浩



このたび、医療人育成推進センター長を拝命いたしました。

本センターは、臨床医学教育、看護実践教育、医療シミュレーション教育統括、医療人キャリア支援の4部門から構成されますが、それぞれ医学教育において極めて重要なミッションを遂行しながら、多くの卒業生、医療人を輩出してきました。

宮崎県ともしっかり連携しながら、シミュレーションセンター充実、地域枠入学者を中心としたキャリア形成卒前支援プランによるサポート体制構築も行っていきます。

さらに、2023年から共用試験(CBT・OSCE)の公的化により臨床実習生(医学)の認証が始まっており、その重要性は増すばかりです。今年は医学教育評価機構(JACME)の認証評価を受審予定です。

本センターの活動におきまして、今まで以上のご協力とご支援をお願い申し上げます。

宮崎大学教員教育活動表彰



黒木 純先生が令和6年度宮崎大学教員教育活動表彰をいただきました!

受賞者から一言

医療人育成推進センターの黒木です。現在、地域枠入学生に対してキャリア教育、ハンズオンセミナー、全体ミーティング等の教育活動を行っており、また、クリニカルクラークシップIの小児科実習においては、症例を交えたハンズオン実習等の教育活動を行っています。令和6年度はその教育活動について、宮崎大学教員教育活動表彰を頂きました。それぞれの教育活動にご助力いただきました医療人育成推進センターの先生方、小児科学教室の先生方には深く感謝申し上げます。これからも教育活動をしっかりと行っていきます。

臨床医学教育部門 黒木 純

2024年度活動報告

学会発表

第56回日本医学教育学会大会

2024年8月9日、10日に帝京大学主幹で開催されました。

生涯教育部会が担当するシンポジウム『新モデル・コア・カリキュラム(令和4年度改訂版)の目標を見据えた理想的かつ教育的な臨床現場構築のための生涯教育の強化事項2024』において、「新コアカリの観点から本邦の資格更新制度や生涯教育制度の位置づけを再考する」というテーマで講演しました。他の演者との討論も通じて医師の生涯教育について俯瞰的に考える良い機会となりました。(小松)



【ポスター発表】

(黒木) 宮崎県における行政、医師会、宮崎大学が連携したキャリア形成卒前支援プランの取り組み

(中村) GPA (Grade Point Average) を用いた地域枠入学者と一般枠入学者の医学部在籍時学修成績の比較

(宮本) 地域枠学生に対する新たな教育プログラム(通称:「ひむか塾」)の実践

第12回日本シミュレーション医療教育学会学術大会

①第12回日本シミュレーション医療教育学会学術大会 優秀演題賞(しまなみ賞)

②学会発表報告

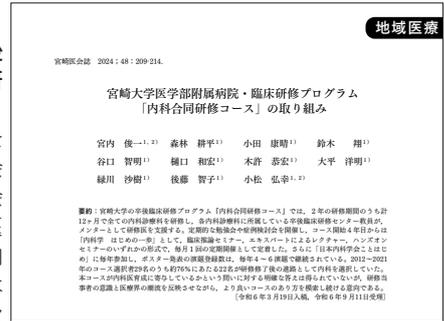
～第12回日本シミュレーション医療教育学会学術大会～

2024年11月2日に愛媛大学主幹で開催されました。文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」で採択された宮崎大学と東京慈恵会医科大学による「地方と都市の地域特性を補完した医師養成モデル事業」の一つとして、本学クリクラIで実施している急変患者の重症度評価と初期対応演習の内容を、一般演題「スマートグラスを用いた大学間遠隔共同シミュレーション実習システム構築のための予備的研究」として発表しました。優秀演題賞もいただき、今後の展開を進める上で大変励みになりました。(小松)



論文紹介

宮崎大学医学部附属病院の卒後臨床研修プログラム「内科合同研修コース」への取り組みについて、約10年間を振り返り現状の分析を行った報告を宮崎県医師会医学会誌に投稿いたしました。(宮崎医会誌 2024;48:209-214.)内科医の減少と高齢化が進む中、将来の内科育成に係る本学の役割と責任は大きいと考えます。卒後臨床研修センター・副センター長として、本コースの詳細を初めて文章化しました。QRコードまたはWeb上で検索できますので、ご興味のある方はご一読いただけますと幸いです。(宮内)



出前講義

2024年7月19日に都城泉ヶ丘高等学校、10月24日に高千穂高等学校へそれぞれ訪問させていただきました。講演テーマ『医師を目指すみなさんへ～ ①医師になるために必要な資質とは? ②宮崎大学医学部地域枠入試制度のご紹介』で医師キャリアの概要や医学部での学修目標と内容などをお話させていただきました。

都城泉ヶ丘高校では計55名の高校1、2年生に、高千穂高校では近隣の五ヶ瀬町、日之影町からお集まりいただいた計19名の中高校生にそれぞれ聴講していただき、大変嬉しく思いました。この中から1人でも多くの方に医師を目指していただければと期待しています。(小松)



女性医師支援・ドクターバンク連携九州ブロック会議

2024年9月28日に宮崎県医師会が主幹となり開催された令和6年度女性医師支援・ドクターバンク連携九州ブロック会議に出席しました。本会議には九州各県の医師会代表の方および日本医師会の角田副会長、松岡常任理事も出席されておりました。

私は、オール宮崎を合言葉に大学・県・医師会の各組織が連携して企画・運営を行っている様々な取り組みや、宮崎大学の清花アテナDEI推進室が行っている取り組み等について、『宮崎大学医学部からの取り組み報告～地域枠への取り組みを中心に～』として発表しました。各県の女性医師支援や働き方をめぐる様々な課題を知る良い機会となり、また、各県の方々が私たちの取り組みに関心を寄せてくださったことを大変うれしく思いました。(中村)



2024年度活動報告

みさと地域医療塾

2024年11月9日に開催されました「みさと地域医療塾」に参加しました。「地域医療と救急医療を考える」をメインテーマに、宮崎大学医学部附属病院救命救急センター長 落合先生の基調講演のほか、自治医科大卒業医師による各地域の救急医療の現状報告や、市民団体による取り組みについての講演等がありました。



今回大学分室から当大学の地域枠に対する取り組みについて卒前教育を中心に発表させていただき、その後の懇親会も含めて地域・職種を超えた交流を深めることができました。非常に有意義な会ですので今後は医学生や若手の先生方にもぜひ参加してほしいと思います。(宮本)

第9回シミュレーションスペシャリストセミナー

2024年11月3日に愛媛大学医学部附属病院にて、「第9回シミュレーションスペシャリストセミナー」が開催されました。参加者61名の職種は様々で、全国のシミュレーション教育に携わっている・シミュレータ管理に従事している方向士が、気軽に相談し合える会でした。

また今回は、「施設紹介と利用者向上のための工夫」について発表しました。

今回セミナーで習得した知識や技術等を、今後のシミュレーション教育で生かしていきたいと思っております。(舟橋)



指導者のための教育ワークショップ

2024年12月14日・15日、臨床研修における指導技法の向上について学ぶ本ワークショップに、センターからは中村、明利、宮本が受講者として、小松、安倍、宮内、黒木が講師として、舟橋が事務として参加しました。研修医への効果的なフィードバックや主体的学習を促す指導法など、2日間の座学やグループワークを通じて臨床教育への理解を深めました。また、教育の具体的な手法を学ぶだけでなく、宮崎での臨床研修をより良いものにするための議論も行われました。今後の研修医教育ですぐに実践できるような、非常に学びの多い会でした。(明利)



臨床医学教育部門

「医学・医療概論」新たな取組み (医学科1年)

「医学教育モデル・コア・カリキュラム」の令和4年度改訂に伴い、日本医学教育学会では、全国医学部の教職員や医学生のコアカリ活用促進を目的としたWebサイト「コアカリナビ (https://core-curriculum.jp/)」を提供しています。本サイトでは医学部で修得すべき10の資質・能力の解説動画とともに講義動画が豊富に収載されています。講義動画は、特に医学部に専任教員の常置が難しい領域(資質・能力「社会における医療の役割の理解(SO)」など)を重点的にカバーして作成されています。本学でも令和6

年度より、医学科1年生前期の「大学教育入門セミナーM～医学・医療概論編」において新たに「コアカリ概要説明～みなさんが医学部で修得すべきこと」の授業を追加しました。授業では担当教員よりコアカリの概要や本学教育カリキュラムでの対応を説明後、コアカリナビを紹介し、資質・能力SOの5領域の講義動画(イントロのみ)を全員で視聴しました。その後、学生自身が1領域を選択して自宅視聴し、1週間以内に感想レポートの提出としました。学生は一般的な興味、医学との関連、当事者意識・経験等の理由で各テーマを選び、社会における医療の役割を踏まえたレポートをしっかりと書いてくれました。ぜひ来年以降も継続したいと思います。(小松)

『コアカリナビ』に収載されている教育解説動画		
A ジェンダーと医療	B 気候変動と医療	C 哲学と医療
A1 SOQIに対する基本事項	B1 オープニング	C1 「哲学と医療の関係」と「医学の全体像」
A2 多様なSOQIへの配慮	B2 プラネタリーヘルス	C2 科学革命とパラダイムシフト
A3 LGBTQの健康格差とその背景	B3 地球温暖化とその原因	C3 医学における科学論
A4 性の多様性と医療の歴史	B4 人間の健康への影響	C4 医学における人間観の変化
A5 個人ワーク	B5 気候変動に対して医療者ができること	C5 次元的人間論と関連する思想哲学
A6 医療機関での対応について	B6 クロージング	C6 医療倫理における人格と尊厳および医学が目指す価値
A7 LGBTQ当事者医師の語り		C7 近現代思想・哲学と現代医療
D 医療経済	E 情報・科学技術の先端知識	
D1 経済学の定義と医療経済学の範囲、医療サービスの経済学的特性	E1 AI数理科学理論	
D2 医療サービス市場に対する規制	E2 機械学習入門①(教師あり学習)	
D3 保険の理論と実際	E3 機械学習入門②(教師なし学習①)	
D4 医療費増加の要因	E4 機械学習入門③(教師なし学習②)	
D5 医療サービスの費用効果分析		

医師キャリアデザインセミナー (医学科3年)

本年度より、教務委員会・キャリアデザインサポート委員会と医療人育成推進センターが共同し、医学科3年生に対して「医師キャリアセミナー」を開催しました。

PartI「様々なケースから学ぶ医師キャリア」、PartII「みんなで考える医師キャリア」の2段階構成で行いました。

今回、PartIIのグループワークを担当しました。KJ法を使って「より良い医師キャリアに必要なものとは?」というテーマをディスカッションしてもらい、活発な議論が交わされました。教員としても現在の学生の皆さんの考えを知る良い機会になりました。(黒木)



医療シミュレーション教育統括部門

附属病院 全職員BLS講習会



シミュレーション部門の大きな役割の一つはBLS講習会の開催による病院職員教育です。全職員BLS講習会は開始から10年以上になりますが、今年度から受講生の背景を考慮した、ベーシックコースとスタンダードコースの2コースを開催することになりました。

ベーシックコースは主に事務系職員、検査技師などを対象にしており、一般向けBLSに基づいた講習を行っています。スタンダードコースでは主に看護師を対象として、医療従事者向けのBLSの講習会としています。いずれのコースもBLSを獲得するという到達目標は変わりませんが、特にスタンダードコースでは看護師が対象であり、院内急変を意識した講義内容としております。



全職員BLS講習会は医療安全、職員教育の面で非常に重要な役割を担っています。本講習会を受講された病院職員の皆様が、病院内外で発生

した急病人に対して適切な蘇生行為が実施できるように、今後も講習会の継続と発展を目指していきます。そのことが宮崎県全体の救急対応の向上の一助になることを願っています。(齋藤)

医学科 FD「シミュレーション教育方法」

講師: 東京慈恵会医科大学 万代 康弘先生

令和5年度からの共用試験公的化に伴い、医学生の医行為経験を含めた診療参加型臨床実習の充実がより重視されてきており、本学でも「臨床実習における医行為の経験基準一覧表」を新たに作成しました。

2024年10月17日に東京慈恵会医科大学の万代康弘先生を講師に迎え、各診療科の教育医長やシミュレーション教育に携わっている方を対象に、「シミュレーション教育を含め、より実践的かつ有効な教育方法」についてグループワーク形式でシナリオベースシミュレーションをどのように作成するか学びました。



医学部 医療シミュレータ操作デモンストレーション

医療シミュレータを利用した教育は医学教育においては不可欠なものです。そして医療シミュレータは、医学教育における需要の増加を背景として日々進化を続けています。一方で医学教育に携わっていてもなかなか最新のシミュレータに触れる機会は多くないのが現状です。



そこで医療シミュレータを取り扱う企業に協力いただき、2025年1月16日に複数の高度なシミュレータのデモンストレーションをしていただきました。今回は超音波検査、気管挿管、血圧測定、胸腔穿刺ドレナージのシミュレータを展示いただき、実際に研修医の先生方にもシミュレータに触れて頂きました。特にエコー、気管挿管、胸腔ドレナージなどの手技は、研修医であっても実際の患者さんで行うことは難しく、シミュレータによるトレーニングは非常に有効な教育ツールとなります。

参加した研修医の先生方も普段経験できない手技を、シミュレータとはいえ実際に経験することができて満足いただけたようです。患者さんにとって侵襲が大きい手技をまずシミュレータで経験することは、医療安全の

観点からも非常に重要なことです。すでに多くにシミュレータを様々な部署や場面でご活用頂いていますが、最新のシミュレータの教育効果



は大きいので、有用なシミュレータの導入を進めていきたいと思います。(齋藤)

小児科 看護師対象「小児急変対応講習会」

2025年1月15日に4階東病棟の看護師10名を対象に、BLSを中心とした小児急変対応の講習会を行いました。小児科永澤俊先生を中心に企画され、講師として小児科黒木、高橋先生が参加されました。これまで4階東病棟では看護師に対して医師が通年で様々なレクチャーを座学で行っていましたが、今回、初めてシミュレーション形式で講習会を行いました。講師、受講者とも様々な学びがあり、非常に有意義な講習会となりました。来年度以降も、様々なテーマでシミュレーションを展開していく予定としております。(黒木)



看護部 「フォローアップ研修:死後の保清と整容」

本院看護部では、臨床技術トレーニングセンター・看護ケアシミュレーションルームを活用し、定期的に研修を行っています。

今回は、2025年1月29日、30日の2日間かけて新人看護師を対象に、「死後の保清と整容」のシミュレーション研修を開催しました。シミュレータをご遺体に見立て、教育担当がより臨床の現場に近い場面を設定し実施しました。



宮崎県地域医療支援機構大学分室活動報告①

宮崎県キャリア形成卒前支援プラン

ひむか塾(キャリア教育)

第1回	4月26日	小児科	黒木 純先生
第2回	5月24日	内科	宮本美由貴先生
第3回	6月7日	外科	樋口和宏先生
第4回	9月2日	救急科	田中達也先生
第5回	10月28日	医師の働き方改革	大学分室
第6回	11月20日	麻酔科	興沼聡志先生
第7回	2月17日	耳鼻咽喉・頭頸部外科	高橋邦行先生

キャリア教育では各診療科の専門医取得までの流れ、従事する医療機関(特にB群:医師少数区域等(延岡西臼杵、日向入郷、西都児湯、日南串間、都城北諸県、西諸)、C群:へき地の公的医療機関)、診療を含めた1日・1週間の流れ、結婚・妊娠・出産などのライフイベント、プライベート等について、若手の先生や専門医を取得した先生から、リアルな声を聞くことができます。Google Formを利用した質問タイムがあり、普段の講義や実習では聞けなかった質問もできます。

令和6年度からは本学医学科学生全員を対象に開催し、各診療科のみならず、医師の働き方改革にスポットを当てた講演も行っています。(宮本)



ひむか塾(基礎)

一次救急 ひむか塾基礎編は主に低学年を対象として講義やハンズオンセミナーを行っています。今年度は成人に対する一次救命処置(BLS)のハンズオンセミナーを2024年5月27日と6月17日に行い、計23名の学生が参加しました。両日ともに3~4名のグループに分かれ、分室医師や地域医療学講座所属の安藤隆太先生から手厚いご指導をいただきました。

セミナーは、圧迫の深さやリズム、胸骨圧迫中断時間、換気量等についてモニタリングできる高性能なシミュレータを用いて行われ、演習終了後



には撮影された自分たちの動画を見ながらデブリーフィングが行われました。デブリーフィング後の演習ではどのチームも心肺蘇生の精度が向上して

いました。多くの学生が自動車学校等でBLS講習を受講した経験がありましたが、セミナー後のアンケートでは『良い点や悪い点を可視化することができたので、とても学びの深いものとなった。』『思っていたよりも難しかった。チームで取り組み、その後動画を見ながら反省点を見つけたりする時間がとても有意義だった。』との声が聞かれました。(中村)

バイタル評価 2024年7月22日、地域医療学講座の早川 学先生にバイタルサインについての講義をしていただきました。当日は計18名が参加しました。講義では身体的なバイタルサインに留まらず、『社会的バイタルサイン(人間は社会的な存在であり、その状況に関する情報・兆候)』についても教えていただきました。総合診療医として活躍する早川先生ならではの講義に、学生たちも興味津々な様子でした。(中村)



ひむか塾(実践)

二次救急 ひむか塾実践編のハンズオン教育として、2024年10月23日に高学年向けに二次心肺蘇生(ACLS)のシミュレーション教育を行いました。心停止症例を想定し、一次評価から胸骨圧迫、気道管理、電気ショック、薬物投与に至る一連の流れを実践しました。シナリオに沿った対応を通して蘇生アルゴリズムの理解を深めるとともに、チームでの役割分担や迅速な判断の重要性を学んでもらいました。今回は2名の参加

でしたが、今後も実践的なハンズオン教育を通じて、学生のうちから救急対応能力を身につけられるような機会の提供を行っていきます。(明利)



宮崎県地域医療支援機構大学分室活動報告②

全体ミーティング&交流会



第1回



第2回

地域枠入学生に対して、年に2回の全体ミーティングを行っています。令和6年度第1回は7月8日に行い、シンポジウム「医師のキャリアと働き方～女性医師を中心に～」を行い、学生155名、関係者25名にご参加頂きました。シンポジストに、各分野で活躍されている女性医師として、豊島典世先生(日向保健所長)、荒木早苗先生(宮崎県医師会常任理事)、児玉由紀先生(清花アテナDEI推進室/産婦人科)、宮本美由貴(地域医療支援機構大学分室/脳神経内科)、中村佳菜子(地域医療支援機構大学分室/消化器内科)にご登壇いただき、また、女性医師の配偶者として内村修二先生(麻酔科)にご登壇いただきました。様々な働き方のご提示、また、どのように家庭と仕事を両立しているかなど非常に興味深いお話をして頂き、学生からも専門医取得のタイミングなど様々な質問があり、有意義な会となりました。

第2回は12月16日に行い、「『求められる医師像』と「自分の働き方」」をテーマにグループワークを行いました。高学年がリーダーシップをとって、どのグループも活発な議論が交わされました。また、終了後は交流会も行い、地域枠入学の先輩、後輩が交流する良い機会になったと思います。

多数の先生方にもご協力いただき、誠にありがとうございました。この場を借りて、御礼申し上げます。今年度は「医師の働き方」にフォーカスした取り組みが中心でしたが、来年度はまた違うテーマを行う予定ですので、来年度もぜひご協力のほどお願いいたします。(黒木)



交流会

学年リーダーミーティング

地域枠入学生の中で各学年3-4名の学年リーダーを選出して、定期的に学年リーダーと地域医療支援機構大学分室教員で意見交換を行います。そこで出た意見を参考に全体ミーティング、キャリア教育等のキャリア形成卒業前支援プランを計画しています。今後はこの学年リーダーが中心となって、自ら教育プログラムを企画、運営することも期待しています。

今後も学生の意見を聞きながら充実したキャリア形成卒業前支援プランを計画していきたいと思ひます。(黒木)



宮崎から医師を目指そう!応援フォーラム

2024年10月6日に、高校生を対象に「宮崎から医師を目指そう!応援フォーラム」を開催しました。宮崎大学医学部医学科1年生の棚橋一陽さん、2年生の竹森さくらさん、6年生の山口万由子さん、医療人育成推進センター小松弘幸先生、救命救急センター佐々木朗先生、県立宮崎病院中村豪先生にご協力いただき、高校生から医師として活躍するまでのキャリアの流れを高校生にお話ししました。Webを使用した質疑応答も行い、参加した高校生はより具体的に医師という職業のイメージがわいたことと思います。

この中から一人でも多くの仲間が増えることを期待しています。(黒木)



令和7年度地域枠合格者説明会・キックオフミーティング

2025年3月8日、宮崎県庁にて、宮崎大学地域枠A・B・C、長崎大学宮崎県枠、自治医科大学の新入生および保護者を対象にキックオフミーティングを行いました。各種制度や宮崎の医療状況の説明、河野俊嗣宮崎県知事の激励ののちに、「宮崎の医療をよくするために自分は何ができるか～学生時代にやるべきこと、できること～」をテーマにグループワークを行いました。将来についての熱い意見交換が行われ、心強く思いました。

新入生の皆さんが思い描く将来に到達するため、地域医療支援機構大学分室として、しっかりサポートしていきたいと思ひます。(黒木)



医学生サポート事業

～東京慈恵会医科大学との交換実習報告～

医学生サポート事業(東京慈恵会医科大学実習経費支援補助)を活用して、令和6年度も9名の地域枠学生が実習に参加しました。

今回は、令和6年11月18日～12月13日までに心臓外科の臨床実習に参加した医学科5年の大村さん、小児科の臨床実習に参加した医学科5年の上村さんからメッセージをいただきました。(舟橋)

大村優美さん(心臓外科)



私は心臓外科で1か月間実習をさせていただきました。実習では手術のある日は手洗いにいらさせていただきました。数多くの症例を経験させていただきました。その他にもクルズスへの参加や糸結び、縫合等の手技も経験することができ貴重な機会となりました。休日は観光地へ行ったり、おいしいものを食べたりして本当に充実した1か月になりました。

このような機会は少ないと思うのでぜひ皆さんも行ってみてください!

上村萌々香さん(小児科)



私は小児科で実習をしました。メジャーな疾患から希少疾患まで幅広い症例を学び、教授回診では担当患者さんのプレゼンの機会をいただきました。心疾患がある新生児に心エコーをしたのも印象深かったです。また、先天代謝疾患の研究会に参加し、最先端の研究に触れることもできました。先生方や慈恵の学生さんと食事に行ったり、休日は観光したりと、実習以外でもとても充実した日々でした。

興味のある方はぜひ行ってみてください!

医師を目指す学生のためのキャリアセミナー

清花アテナ DEI 推進室・宮崎県医師会主催 | 医療人育成推進センター・日本医師会共催

2024年11月28日、清花アテナDEI推進室・宮崎県医師会が主催し、宮崎大学医学部医療人育成推進センターが共催する「医師を目指す学生のためのキャリアセミナー」が開催され、計24名の医学生が参加しました。

セミナーは、トークセッションとその前後のテーブルトークの3部構成で行われました。トークセッションでは産婦人科教授の児玉由紀先生、循環動態生理学教授の渡邊望先生、フロンティア科学総合研究センター教授の伊達紫先生、脳神経外科教授の沖田典子先生、放射線科教授の東美菜子先生がキャリアに関する様々なテーマについてお話をしてくださいました。

参加者たちは、第一線でご活躍されている先生方の話やアドバイスに真剣に耳を傾けていました。また、テーブルトークでは、参加学生は各テーブルに配置された現役の医師と自由に意見交換をしていました。(中村)



宮崎大学医学部医療人育成推進センター

〒889-1692 宮崎市清武町木原5200番地

TEL:0985-85-8305 FAX:0985-85-7239 E-mail:iky@med.miyazaki-u.ac.jp

医療人育成推進センターホームページ <http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/home/iryujin/>



《HP》